

## 教員生活の思い出（上）

千葉俊雄

### 一、女子中学生の一言

私が正式な教員になる前の、非常勤講師の時の話。

理科の授業で、分子のおよその大きさを調べる実験を生徒にさせた。

まず小さなメスシリンダーに油滴を1ccになる迄、スポイトで滴数を数えさせながら入れ、油滴一滴の体積を計算させた。

次に、油滴を一滴水面に落として、薄く拡げ、拡がった油面の面積を測らせて、油滴の体積から、油滴の厚さ（高さ）を計算させ、この油面の厚さを一分子の直径とした。

但し、油滴も水も透明なので、水と油の境目がよくわからない。そこで、コルクを砕いた、細かい粉を水面に撒いて、境目をはっきりさせた。

いよいよ実験開始。油滴を落とした水面に、男子が勢いよく粉を吹きかけた。

すると、向かいの男子生徒が、「粉がかかるじゃないか。」と、クレーム。一発触発の様相となった。

そこに、女子生徒の一声。「こうやれば、いいじゃない。」と、持っていた下敷きを衝立にして、一件落着。私は見えていて、この女の子に拍手を送りたい、いやノーベル平和賞を贈りたい気持ちだった。

国と国の紛争も、この女の子のような仲裁があれば、円満に解決するのに……。と思った。

彼女の論法でいけば、世界の農業技術者が知恵を出し合ってシベリアを穀倉地にすれば、ロシアは自給自足でき、ウクライナへの侵攻は不要で、北方領土も返還されたかもしれない。（楽観的な見方だが：。）

喧噪の夏の教室鎮めし子 俊雄

二、放送コンテスト..①外国人生徒の挑み  
専任の教員になってから、私は放送コンテストの運営に携わった。放送コンテストというのは、朗読やアナウンスと、音声を使った番組作品。映像を使った番組作品を作成し、その技術を競うコンテストです。  
せっかく放送コンテストの運営の仕事をしているのだから、勤務校からも生徒を出そうと、放送委員会に声を掛けた。  
すると、二人の生徒がやりたい。と申し出た。それでは、と思ったが、一人は恰幅の良、顔形とも一目で外国人とわかる女子。もう一人も女子で、細身だが、話し方で、外国人とわかる。一瞬、大変な生徒が応募してきたぞ、と思った。  
本人達は、アナウンス部門に挑戦して、自分の国の事を紹介したい、と言う。なるほど。と思った。  
だが、書いてきた原稿は、殆どがひらがな。これでは、本部に提出できない。止むを得ず、こちらで漢字の多い文に書き直して提出し、書き直した原稿で練習させた。ところが、書き直した漢字が全然読めない。どうしようも

ないのので、練習の時は、生徒が書いた、殆ど  
ひらがなの原稿を使った。  
次に、発音、発声だ。「あ」は口を大きく  
開けて、「お」は、口をすぼめて……。と一つ  
一つ教えねばならない。その上、外国人特有  
のアクセントは、なかなか直らない。  
同僚からは、「無理だよ。止めた方がいい  
よ。」と言われたが、本人達が一生懸命やっ  
ているので、映画「マイフェア・レディ」  
のヒギンズ教授になったつもりで、指導し  
た。  
審査結果は、恰幅の良い女の子は、何と予  
選通過。声量と度胸があったからかもしれな  
い。もう一人の方は、ダメだった。  
予選通過の子は、外国風？に体中で歓びを  
表し、ダメだった子はシヨンポリ。幸い放送  
委員会にはもう一人、女性教員の顧問がいた  
ので、その方に慰め役をお願いした。  
後日、道でダメだった子に会ったら、「失  
敗してすみませんでした。」と言ってきた。  
「いいんだよ。」と返したら、ホットした様  
子だった。  
以来、私は放送コンテストに挑む生徒に、  
ア・エ・イ・ウ・エ・オ・ア・オの発声練  
習は、アツハツハツハツハツ。エツツヘツヘ  
ツヘツヘ。というように、笑い声でやってご  
らん。と指導するようになった。笑うと横隔膜  
の刺激になるし、緊張が緩むからだ。  
そして、例え予選が通過できなくても、「放  
送コンテストに参加できて良かった。」とい

う感想を持ってもらいたいと思っている。  
またあの二人は、せめて日本にいる間だけでも、日本語を大切にして欲しいと思った。  
正に、言葉は国の手形だ。  
秋の空あ・え・い・う・え…と声を出す俊雄

二、放送コンテスト…②間に合わなかった  
別の年には、男子生徒が放送コンテストに出たいと言ってきた。今度は、正真正銘の日本人。これならうまくいくかと思ったのだが、語頭を強く発音する癖が直らない。

予選当日。緊張したせいか、悪い癖が出てしまい、あえなく予選落ち。

結果がわかると、本人はすぐに帰ってしまった。ふて腐れたのかな、と思ったら、そうではなかった。後日、本人に訊いたら、母親が危篤で、結果がわかったら、すぐに帰ってこいと家の人に言われていたとの事。「死に目に会えたのか？」と聞いたら、「ダメだった。」の返事。

「それなら、コンテストを休めば良かったのに。」と言ったら、「母親も放送コンテストに出た事があって、頑張ってこい！」と言われた、との事。  
せめて予選を通過していれば、良い報告ができたのに…。と思ったが、やはり、競技の世界は、厳しい。  
でも、逝った母親は、一生懸命な息子の姿を、空の上から、見ていたに違いない。

逝きし母我が子励ます初夏の朝 俊雄

## 教員生活の思い出（中）

千葉俊雄

二、放送コンテスト…③全国大会、優勝！  
転勤三校目の時の話。  
ここにはメカに強い教員がいて、映像の部門に挑戦する事ができた。  
一回目に挑戦した時のタイトルは、「給食ができるまで」。  
給食室は、仕入れや仕込みがあるので、朝が早い。作品は、早朝、給食主事さん達が出勤する姿をまず撮影。調理、校長の検食。給食後、生徒が残飯を出す迄をカメラで追いかけて、一段落した給食主事さん方のインタビュー、というストーリーだ。  
編集に編集を重ねて、作品を仕上げたが、それが仇。当時は、VHSだったので、編集を重ねると画質が劣化する。全国大会に出場できたものの、予選落ちだった。  
翌年は、雪辱の挑戦。やはり、食のテーマで、タイトルは「食べときゃ良かった」。  
朝寝坊して、朝食を抜いて登校した生徒が、一時間目の体育の授業で、持久走をし、校庭を半周して、ダウン。  
どうしてそうなったのか、原因を思い起さすと、朝食を抜いた事に気づく。  
そこで検証。朝食を摂った時と、抜いた時点で、頭の働きがどう違うか、針の糸通しや、四則計算等で調べ、朝食を抜くと、頭の働きが鈍くなる事を結論づける。そして、栄養専

門学校にインタビューのダメ押し。  
努力の甲斐あり、今度はめでたく、全国大会の優勝に輝いた。「貰えて、良かった！」。放送コンテストを通して、生徒が人に伝える大切さに気づいてくれれば、と思う。  
賞を手に満面の笑み初夏の風 俊雄

### 三、理科ニュースを創る…①作成の経緯

理科の授業は、教える量（カリキュラム）が多く、その上、実験実習等、授業に時間がかかるものが多い。生徒に余談を言って、息抜きさせる時間がない。下手をすると、理科嫌いへ拍車をかける事になる。何とかならぬいかと、常々思っていた。おそらくは、多くの理科教員が抱えている課題だと思う。

そこで思いついたのが、「理科ニュース」だ。理科的なエピソードを紹介して、理科的な興味を持たせる。併せて、文章を読む事で、思考力も養える。「理科ニュース」を読ませるのは、試験答案返却後の余白時間にした。

ある日、授業の準備で教科書を見たら、「海岸段丘を走る京浜急行」の写真があった。だが、何故この写真が海岸段丘なのか、わからない。そこで早速、三浦半島へ行ってみた。しかし、写真を撮影したらしい場所に立っても、どこが海岸段丘なのか、はっきりしない。こうなったら意地。わかるまで、何度でも行ってみる決意をした。

海岸段丘とは、海底が隆起を繰り返した為に見える、海岸から陸地への段々状の地形だ。

何度目かに行った時、電車の運転室の窓から外を見ていたら、三崎口に近くなって、線路が崖の中腹に出た。そして、海岸線が線路の崖に迫ってくる。反対側は、崖が続く、「これだ！」と思った。これが段々状の地形、海岸段丘だとわかった。教科書の写真は、白黒で、海岸段丘を正面から撮ったからわかりにくかったのだ。「現場百辺」の成果だった。いや、成果はまだあった。バスの時間に間があるので、三崎港までタクシーを使った。車窓に大根畑が広がる。ここは、三浦大根の産地だ。

私は運転手に、「ずいぶん、大根畑が広がっていますね。」と言ったら、運転手は、「最近は、青首大根が多くなりました。」との返事。この時、私にはふと疑問が生じた。

大根や芋のような地下茎植物は、火山灰地（シラス台地）に多く生育する。という事は、ここは火山灰地だったのだろうか、富士山の火山灰が、多く降り積もったのだろうか。

そこで早速、行った先の観音崎博物館の学芸員に訊いてみた。

「そうですね。三浦半島には、火山の噴火口があったのです。」そして、学芸員はさらに、「この先のバス停がある浜を「たたら浜」と呼びます。この地層の境目に黒い部分があるでしょう。火山灰に含まれていた鉄です。これをたたらを使って、精錬したんですね。」

私は唱歌の「元寇」の歌詞を思い出した。「たたら浜辺の蝦夷：」この唱歌の舞台は、

北九州。鉄の産地だ。  
そして、観音崎で幾つかの断層と海岸段丘らしい地形を見つけた。ネタは揃った。  
早速、「理科ニュース」地質探訪上・下（三浦半島に大地の鼓動を観る）を刊行した。  
以来、私はなるべく現地に行く事にしていく。私の趣味は旅行で、北は北海道大雪山から、南は日本最南端の波照間島（はてるま）迄巡った。そして、旅先で得た事を「理科ニュース」にして、生徒に伝えた。  
地で詠むと、臨場感が湧く。俳句も現

☆ ☆ ☆  
こうして得た教師生活の思い出は、大切に私の記憶の箱の中にしまっておきたい。

初花のかほる 学び舎後にする 俊雄

#### 四、理科ニュース裏話①「断層」

理科ニュースを書く為に、何度か三浦半島を訪れた時の事だ。浦賀ドックの向かいにマンションがあり、その裏手の土手に断層を見つけた。しめたとばかりにシャッターを切った。それから数ヶ月して同じ所へ行ったら、断層は、コンクリートで覆い隠されていた。三浦半島に土地や家屋のお求めを考えていらっしゃる方、くれぐれもご注意ください。三浦半島南端は大正時代の関東大震災の震源地で、活断層の巣です。

春兆す三浦の海の波やさし 俊雄

## 教員生活の思い出（下）

千葉俊雄

理科ニュース裏話の話が続けます。

### 四、理科ニュース裏話…②「信号機」

三浦半島に足を運ぶようになって、私の目に観察力がついてきたのかもしれない。最近の街の信号機の青や赤の灯に、幾つもの光の粒が集まっているのに気づいた。発光ダイオードの灯だ。

調べてみると、今迄の信号機の電球は家庭用電球と違い、電球にハロゲンガスを入れてある事がわかった。

ハロゲンガスは、他の物質と反応しない。もし、電球内に酸素があると、酸素がフィラメントと反応（酸化）して、電球が劣化するが、反応性のないハロゲンガスが酸素とフィラメントの間にあると、二者の反応（酸化）を防いで、電球を長持ちさせる。この事を「物質の性質と利用」という面から、理科ニュースの話題にした。

リング落つその理を子供らに俊雄

### 四、理科ニュース裏話…③「天気の変化」

気象予報士の倉嶋篤さんは、天気予報の番組の中で、よく自作の句を紹介していた。俳句は四季を詠み込むので、気象の変化の表現には、最適なのだろう。

私が気象変化の理科ニュースを作った時

も、歳時記から俳句を引用した。  
「雲の色々」の項で、鱗雲の写真の下に、  
「妻がゐて子がゐて孤独鰯雲」安住敦  
の句を載せたら、生徒が「奥さんも子供もい  
るのに、何故孤独なんですか？」と質問して  
きた。「鰯雲が広がる広い空の下に立つと、  
孤独を感じるんだよ。」と答えたが、果たし  
て、生徒は理解できたか、どうか。  
俳句を理科ニュースに載せたのは、私自身  
が俳句が好きだった事もあるが、国語の授業  
で俳句をやると、生徒はやたらと評価を気に  
する。平易な気持ちで俳句に親しんで貰えれ  
ば、と思ったからだ。  
梅雨空の仕組みを説きし今日の理科 俊雄

## 五、先島紀行…①波照間島

先島諸島へ行った。先島諸島とは、沖縄諸  
島から南の、宮古島、石垣島、そして、日本  
最南端の波照間島等だ。理科の話題も多い。  
波照間島の名は、果ての珊瑚の島の意味。  
先島にしろ、波照間にしろ、中央（東京）に  
対しての果て、先の名だから、気仙語の山浦  
玄嗣さんさぞかし気を悪くするのではないか  
と思う。（「新・気仙風土記」参照。）  
波照間島へは、石垣島から飛行機で行った。  
（今は、廃止になっている。）十人乗りのプ  
ロペラ機で、搭乗前に各自体重を量る。左右、  
重さが均等になるように座らせる為だ。  
プロペラ機だから、珊瑚礁の海面近くを低  
空で飛び、眺めが良い。波照間島の位置は、

北緯24度2分、東経123度47分で、台湾とほぼ同じ緯度。十二月から六月は、洋上に南十字星の四つの星の内、上三つの星が見える。

そして驚いた事に、この街路樹は、パイナップルだった。まだ実は青かったが、あと一ヶ月もすれば、芳香が道を包むに違いない。また、あちこちの緑地に、山羊が放たれ、無心に草を食んでいる。正に、自然の島だ。

私は職業柄、波照間島中学校を訪れた。広い校庭に、小学校が併設されているが、夏休みなので、生徒の人影はない。

中学校の生徒数は十九名、教師十八名。校内を教頭先生が案内してくれた。パソコン室では、生徒一人に一台のパソコンがあります。と教頭先生は、自慢顔。

野外活動として地域清掃をし、終了後は野外炊爨。ゴミの収穫物の横で、白い歯を出し、美味しそうにトウモロコシをかじる日焼けした中学生の写真が、渡り廊下にあった。

島民が生徒一人一人を知っているので、非行はありません。でも他へ行くと、純朴なだけに、非行に染まるんです。と顔を曇らせた。戦時中、波照間島の小中学生は石垣島へ強制疎開をしたが、疎開先がマラリア病棟だった。ので、全員が帰らぬ人となった。

その辛さを全校生徒が作詞と作曲をした。小学校の外壁に、その歌詞が書かれていた。

☆ ☆ ☆  
「星になった子どもたち」

南十字星 波照間恋しと  
星になった みたまたち  
ガタガタふるえた マラリアで  
一人二人と 星になる

苦しいよ 寒いよ お母さん  
帰りたい 帰りたい 波照間へ (以下  
略)

マラリアに罹りて疎開児星になる 俊雄

### 五、先島紀行…②石垣島

石垣島へ戻り、石垣島気象台へ向かった。  
「石垣島では、風力三、天気晴れ。：「気象  
通報で、最初に出てくる気象台だ。  
観測は殆どコンピューター制御だが、雲量  
は人間の目。雲量を見ようと屋上に上がった  
ら、中が黒く塗ってあるお椀が置いてあった。  
黄砂を観測するらしい。「黄砂が飛来します。」  
の情報源は、このお椀だった。  
黄砂飛ぶニュースソースは椀の中 俊雄

### 五、先島紀行…③西表島

石垣島から今度は、フェリーで西表島へ。  
イリオモテヤマネコで知られる島だ。  
ビクターセンターでこの骨格標本を見た  
ら、尻尾迄背骨が延びていた。哺乳類がハ虫  
類から進化した証拠だ。孤島の生物は外来種  
との交配がなく、先祖のハ虫類の特徴を持つ。  
西表島の目の前の由布島へは、浅瀬を水牛  
車で渡る。しかし、水牛も生き物。用足しは

する。用足しをする時に車輪が止まる。だが、乗客は文句を言わない。

日の盛尿の間止まる水牛車 俊雄

## 私の徒然日記

千葉俊雄

気の向くままに、私の日記をめくってみる。

### 一、某年、春…片脚の鳥居

私が長崎へ行ったのは、今からおよそ三十年前、原爆投下後の五十年前後だった。市電を浦上停留所で降りると、山の上に片脚の鳥居が見える。長崎名物の坂と階段を十分ぐらい上ると、片脚の鳥居が姿を現す。そして、視線を片脚の鳥居と、残った台座に向けると、不思議な物が私の目に入った。鳥居が吹き飛ばされて、残った二つの台座の表面が、黒くなっている。漆でも塗ったように、つや光りしている。これは一体何か？ すぐにわかった。黒い雨だ。投下後五十余年経っても、黒い雨は剥がれなかった。片脚の鳥居も、黒い台座も、あの日の惨状と放射能の恐ろしさを無言で伝えていた。

長崎忌残る台座や黒ひ雨 俊雄

### 二、令二、八、三十一…朝日俳壇入選

象三頭眠る上野や敗戦忌

この日、「右の句が『朝日俳壇』に入選しました。」と、朝日新聞社から電話があった。九月六日付け朝刊に載ると言う。

私は常々朝日俳壇の素晴らしい句に感心し、何度も挑戦しては、ボツとなっていた。

いただいた電話に、「ようやく、入選しました！」と言ったら、「今はコロナで応募者が多く、五千人の中から選ばれました。」と嬉しい返事。児童書を詠んだだけの句が何故入選したのか不思議だった。

思うに、例え児童書を詠んだ句でも、戦争の悲惨さ、戦争を繰り返してはいけないという私の思いが、選者に伝わったのだろう。

更に電話は、「象の骨は散骨され、今は動物園にあります。」と意外な事を言われた。

戦時中、空襲で猛獣が逃げ出す事を恐れ、トラやヒョウ等の猛獣と一緒に、ジョン、トンキー、ワンリーの象も殺される事になった。

ジョンは薬で死んだが、トンキー、ワンリーは薬では死なず、餓死させる事になった。

二頭の象は、餌をねだり、最後の芸をしながら、息絶える…。

この話は、土家由岐雄著「かわいそうなぞう」を始め何冊もの児童書が出版されている。

動物園の案内窓口へ行って確認したら、「あると言えばあるし、ないといえば、ありません。」と要領を得ない返事。結局、三頭の象の骨は、上野の山に散骨された事がわかった。

あの三頭の象の骨は、戦争を語る証人だ。散骨した動物園の無神経さに憤りを感じた。

秋の日や吾が句朝日の活字なり 俊雄

☆

☆

☆

後日、この記事を読んだ、上野動物園でボランティアをしている方が見えた。

「動物の骨は、番号を付けて、きちんと保



その後の交渉は、遅々として進まず、絶望の底の母親早紀江さんは、キリスト教の信仰へ導かれる。

☆ ☆ ☆

野伏氏は、年々後退する北朝鮮の態度に憤りを感じ、拉致被害者早期全員帰還実現には、世論の盛り上がりが必要と、劇の全国上演を決意。そして、拉致問題の事実を多くの人に知って貰い、世論のうねりをもっと高めようと、劇を映画化し、更に、いつでも、何処でも見られるDVDも作った。このDVDは、営利目的でない団体に、無料で貸し出している。映画では真に迫る場面が多かった。工作人員が船から潜水して、密かに日本に上陸する所や、めぐみさんが拉致されるシーン。収容所施設が放火で炎上するシーン等、幾つもある。また、脱北者の協力が得られ、ご自身が出演され、更に内容も深まった。そして、めぐみさんが厳しい監視の目を潜り、日本の短波放送を聴くシーンは、親を思う気持ちが滲み、いじらしかった。トークショーで野伏氏は、「上演の際、めぐみさんのご両親をお誘いしたら、早紀江さんは、『見るに堪えないから：。』と辞退され、父親の滋さんが来られた。そして、めぐみさんが拉致される場面では、拳を固め、机を叩いていた。」と話していた。また、滋さんは映画化に随分積極的だったが、映画の完成も、拉致被害者全員帰還も待たずに、他界された。

早紀江さんは、「めぐみさんが還り、滋さんの遺骨を抱く迄は埋骨しません。」と帰還実現への強い意志を示している。

なお、早紀江さんは自書「愛は、あきらめない」の中で、「必ずまたいい日があるから、希望だけは捨てないでね。絶対に希望ですよ。」と記している。

一日も早い、拉致被害者全員の帰還実現を改めて祈る。

東風に乗せ親の願ひを北鮮へ 俊雄

父遺骨せめて娘が抱く春になれ

クリスマス母と（こ）娘共に祝ふ日に俊雄  
虹架かるその日を願ふ拉致親子 俊雄

#### （四）某年六月×日…恩師、吉田幸人先生の思い出

大学時代の恩師、吉田幸人先生の訃報を受けたのは、六月の初めだった。

先生は日頃、「実験する時はテキストを見るな。」と言われた。操作ぐらい頭に入れておけ、という事と、メニュー通りに実験をしては、実験から学ぶ事ができないからだ。

私は、この言葉を噛みしめ、教員生活の指標にした。マニュアル通りでは、生徒は動かないからだ。また、先生は料理をする時も、テキストと首っ引きではいけません。とか、育児書通りに、子どもを育ててはいけません。ともおっしゃっていた。子どもは、多様性があるからだろう。

この言葉は、授業は通り一遍ではダメだ。教える内容を自分なりに咀嚼し、教える工夫をしなければ、ダメだ。とも私には聞こえた。

自主教材の開発や、「理科ニュース」を作る発想も、この言葉からの刺激だった。ある日、先生の自宅へゼミ仲間でお邪魔し、帰り際に奥様を入れて、全員で記念撮影をしようとしたら、奥様は座布団を外された。背の低い先生を気遣ったからだ。正に相思相愛。私達学生には、大変眩しいシーンだった。先生は、容体が悪化しても、ご自宅での研究を止めなかった。奥様が心配されて、「お休みになつたら。」と言われると、「邪魔をするな！」と、あの優しい奥様を叱ったそう。それだけ、研究一途の先生だった。私が教員試験に受かった時、先生は「理科好きの子供を育ててください。」と励ましてくださった。た。

訃報を受けた時、命のスケジュール表は、私達には作れないと思った。先生にとっては、まだまだ研究の道半ばだったに違いない。そして、紫陽花もこの季節の花だが、彩りを成すのに、もう少し日を要す時期だった。死は期せずして訪れるものだと思った。

師逝きぬ紫陽花彩の淡きとき 俊雄